

令和 3 年 度

高等学校新入生徒の学力に関する研究（英語）

愛知県総合教育センターでは、愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校において、その新入生徒を対象に英語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

この研究は、以下の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 統計資料（設問別正答率）
- (3) 問題別の考察（出題のねらい，問題文，小問別正答率，誤答分析）及び指導上の留意点

＜検索用キーワード＞

英語 中学校 高等学校 学力調査 中高連携 正答率 誤答分析 コミュニケーション能力

研 究 協 議 会 委 員

愛知県立愛知商業高等学校教諭	水 野 裕 子
愛知県立松蔭高等学校教諭	石 田 秀 憲
愛知県立日進高等学校教諭	下 條 貴 司
愛知県立東郷高等学校教諭	岡 村 有 美
愛知県立半田東高等学校教諭	大 野 将 臣
愛知県立横須賀高等学校教諭	夜 部 隼 人
愛知県立豊田東高等学校教諭	稲 垣 宏 行
愛知県立豊橋東高等学校教諭	徳 田 英 輔
愛知県総合教育センター研究指導主事	太 田 恵 里
愛知県総合教育センター教科研究室長	内 山 真 一（主務者）

目 次

1 調査の趣旨	56
2 調査の実施及び処理	56
3 調査結果の概要	56
4 分析結果の概要	57
5 統計資料	58
6 問題別の考察及び指導上の留意点	59

1 調査の趣旨

愛知県総合教育センターでは、この学力調査を愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、昭和 29 年度以来継続して実施し、令和 3 年度で 68 回目となる。対象は、参加を希望する愛知県内の国・公・私立高等学校の新入学生徒である。調査結果の集計、分析及び考察を行い、新入学生徒の英語学力の実態と推移を把握するとともに、主に次の資料を得ることを目的としている。

- (1) 中学校と高等学校の連携資料
 - (2) 高等学校第 1 学年における指導上の参考資料

2 調査の実施及び処理

調査は、愛知県高等学校英語教育研究会が担当し、調査問題及び報告書（調査結果の統計処理及び考察）の作成は、当センターの教育研究調査事業「高等学校新入学生徒の学力に関する研究（英語）」において行った。

(1) 実施時期

令和 3 年 3 月下旬から 4 月中旬までの間に、新入学生徒英語学力調査の参加校において実施した。

(2) 実施状況

	年度 科	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
		校数	受検者数	校数	受検者数	校数	受検者数	校数	受検者数
全日制	普通科	99	25,116	92	23,194	30	7,248	76	18,183
	総合学科	7	1,714	9	2,180	4	716	9	1,900
	商業科系	7	785	5	457	1	40	3	150
	家庭科系	12	705	12	726	4	257	9	501
	英語科系	4	168	4	192	1	40	5	206
	他の学科	9	493	10	678	3	173	5	250
合 計		138	28,981	132	27,427	43	8,474	107	21,190

(注 1) 表中の校数は参加した学科・コース数を表す。

(注 2) 「他の学科」は、農業科、工業科、福祉科、音楽科等である。

(注 3) 「英語科系」は、国際教養科及び英語留学コースである。

(3) 問題作成上の留意事項

本調査は、高等学校での学習内容を理解するために必要とされる基本的事項の習得状況を、学習内容ごとに調査するものである。問題作成に当たっては、次の点に留意した。

ア 中学校学習指導要領に示された内容の範囲を超えないこと。

イ 明確な調査目標をもった問題内容であること。

ウ 言語材料については、現在愛知県内の公立中学校で採用されている教科書（NEW HORIZON English Course 1, 2, 3 東京書籍）の範囲を逸脱しないものとする。

(4) 統計上の調査事項

学力調査参加校には、次の事項について回答を求めた。

ア 平均点 イ 得点分布表 ウ 小問ごとの正答者数（各校人数の 10%を抽出）

エ 聞き取りテスト実施状況

3 調査結果の概要

〔表 1〕は、調査対象 21,190 名の個人得点を 10 点幅の得点分布に分けて、全体及び学科別の平均点及び標準偏差をまとめたものである。

個人得点の分布（平均点及び標準偏差）

[表 1]

得点域	-90	-80	-70	-60	-50	-40	-30	-20	-10	9-0	合計	平均
全 体	2,165	2,746	2,705	2,688	2,668	2,450	2,414	2,252	1,026	76	21,190	57.6
%	10.2	13.0	12.8	12.7	12.6	11.6	11.4	10.6	4.8	0.4	標準偏差	24.0
普 通 科	2,068	2,651	2,578	2,442	2,285	1,947	1,820	1,613	731	48	18,183	60.1
%	11.4	14.6	14.2	13.4	12.6	10.7	10.0	8.9	4.0	0.3	標準偏差	23.5
総合学科	6	22	62	159	253	346	427	421	188	16	1,900	39.1
%	0.3	1.2	3.3	8.4	13.3	18.2	22.5	22.2	9.9	0.8	標準偏差	16.9
商業科系	1	2	5	13	35	21	26	37	9	1	150	41.7
%	0.7	1.3	3.3	8.7	23.3	14.0	17.3	24.7	6.0	0.7	標準偏差	17.3
家庭科系	2	10	13	27	54	99	94	123	74	5	501	36.8
%	0.4	2.0	2.6	5.4	10.8	19.8	18.8	24.6	14.8	1.0	標準偏差	17.4
英語科系	86	50	29	17	14	5	4	1	0	0	206	81.3
%	41.7	24.3	14.1	8.3	6.8	2.4	1.9	0.5	0.0	0.0	標準偏差	15.6
他の学科	2	11	18	30	27	32	43	57	24	6	250	42.2
%	0.8	4.4	7.2	12.0	10.8	12.8	17.2	22.8	9.6	2.4	標準偏差	21.0

4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、令和3年度学力調査結果に見られる新入学生徒の学力の傾向を項目ごとにまとめた。

(1) 発音・文強勢（【1】発音・文強勢問題 正答率 50.4%）

全大問中で2番目に正答率が低かった。sick の下線部の発音 [i] を、see の [i:] や exciting の [ai] と区別できていない。また、新たな話題が追加されるときに、新しい情報である dolphin に強勢を置いて相手に伝えることができていない。

(2) 語彙力（【2】語彙問題 正答率 57.3%）

選択式問題の正答率は高く、基本的な語彙は定着している。一方、記述式問題では、つづりの誤りよりも、別の語を解答する誤答や無答が多く、文脈を読み取り、正しい語を導き出すことができていない。

(3) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率 63.1% 【4】文法・表現問題 正答率 66.5%）

ア 【3】文法・語法問題においては、want + 目的語 + to 不定詞の用法や look + 形容詞の用法はよく定着している一方で、文脈に応じて接続詞を適切に使うことができない。

イ 【4】文法・表現問題は、全大問の中で最も正答率が高かった。特に、現在完了の用法（継続）と疑問詞 Whose の用法はよく理解されている。

(4) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率 48.9%）

全大問中で最も正答率が低かった。やり取りの流れから判断して発言の意図を正確に理解することができていない。

(5) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率 51.4%）

It is ~ for 人 to 不定詞の文構造はよく定着しているが、接触節を用いて主語を後置修飾することができない。

(6) 読解力（【7】長文読解問題 正答率 55.2%）

場面の状況や登場人物の行動などを整理しながら、物語の展開を正確に捉えることができていない。

(7) 聞き取りの力（【8】聞き取り問題 正答率 65.2%）

全大問中で2番目に正答率が高かった。会話の中の表現を聞き取り、情報を整理しながらやり取りの流れを理解することができていた。

5 統計資料

(1) 設問別正答率(%) (過去との比較)

〔表2〕は、抽出答案による設問別正答率を年度ごとにまとめたものである。年度により出題内容や難易度が異なるため、単純な数値の比較は困難であるが、本年度は、設問【3】文法・語法問題の正答率が高く、設問【5】口語表現の正答率が低いことが分かる。

設問別正答率(%)の推移(過去との比較)

〔表2〕

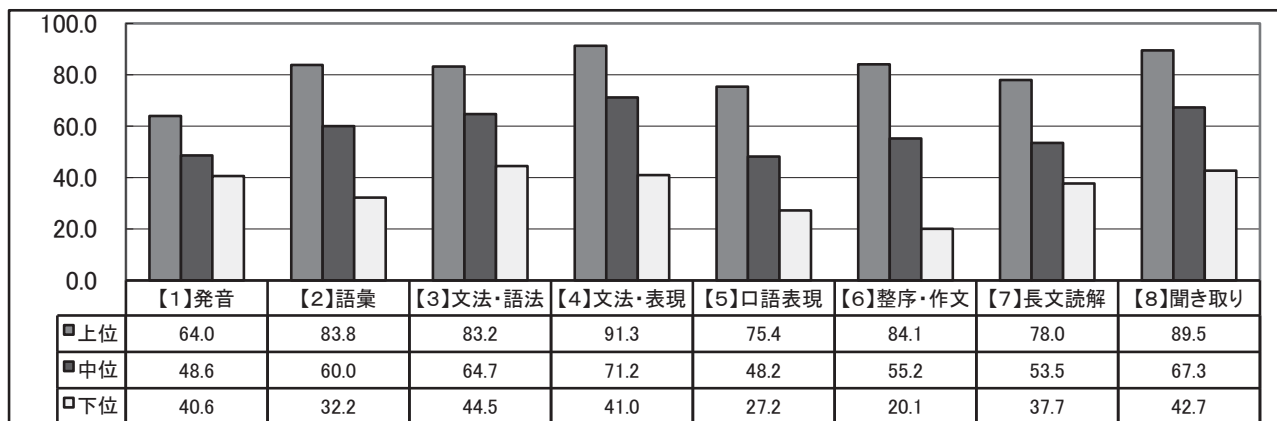
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
抽出人数	3,204	3,265	3,252	3,207	3,177	2,953	2,795	860	2,169
全設問	57.0	51.2	65.5	59.9	61.9	62.6	65.5	56.0	57.6
【1】発音・文強勢	66.6	46.9	59.8	64.3	64.5	50.3	62.9	50.1	50.4
【2】語彙	41.2	47.9	49.6	35.5	64.5	62.7	64.2	64.0	57.3
【3】文法・語法	67.0	55.7	63.9	56.0	74.3	76.7	77.0	69.4	63.1
【4】文法・表現	40.3	42.9	71.4	59.8	70.1	74.6	65.6	55.6	66.5
【5】口語表現	73.5	45.8	83.9	65.7	55.2	69.1	57.7	61.5	48.9
【6】整序・作文	55.2	55.2	60.9	66.3	40.0	48.6	63.7	42.9	51.4
【7】長文読解	52.7	51.2	60.5	63.3	61.6	59.6	58.0	56.3	55.2
【8】聞き取り	75.1	59.1	75.5	60.4	72.5	62.9	77.7	55.0	65.2

(2) 令和3年度設問別正答率(上位・中位・下位層の比較)

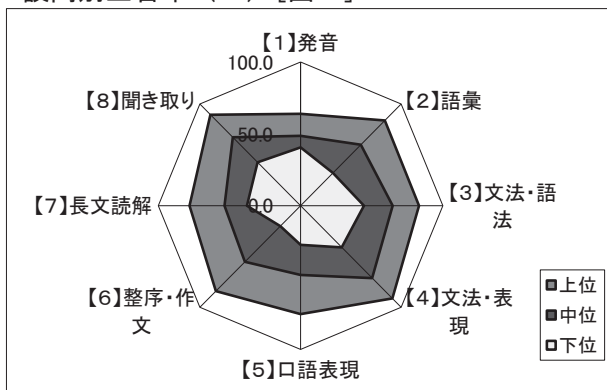
〔図1〕は、受験者10名以上の調査校101校(学科・コース)から抽出した2,164名中の学校平均点上位22校(偏差値55以上)に所属する642名(上位層)、学校平均点中位34校(偏差値45以上55未満)に所属する765名(中位層)及び学校平均点下位45校(偏差値45未満)に所属する757名(下位層)の設問別正答率をグラフにしたものである。

設問別正答率(%) (上位・中位・下位層の比較)

〔図1〕



設問別正答率(%)〔図2〕



〔図2〕は〔図1〕をレーダーチャートにしたものである。設問別に各層の正答率を比較すると、【6】整序・作文で各層の差が大きい。下位層では、表現力に課題がある傾向が過年度と同様に見られる一方で【3】文法・語法の正答率が高い。また、【1】発音では中位層と下位層の差が小さい。

6 問題別の考察及び指導上の留意点

(1) 発音・文強勢問題

出題のねらい：母音及び子音の正しい識別及び会話文における強勢の知識を測る。

【1】 次の英文は Meg と Dad との会話です。(1)～(3)の下線部と発音が同じものを英文中の下線部ア～コから一つずつ選び、記号で答えなさい。また、波線部(4)、(5)において、下線部 a～d のうち最も強く読まれるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) fly (2) sick (3) open

Meg : Dad, I want to see the elephants first!

Dad : No, no, Meg. (4) Today we are going to an aquarium, not a zoo. There are no elephants there. You can see many kinds of fish, whales, penguins, and so on.

Meg : Penguins! I know they walk very slowly, but they swim so fast!

Dad : You're right. (5) You can enjoy watching a dolphin show, too.

Meg : A dolphin show?

Dad : For example, a dolphin swims with a woman, jumps up really high, and kicks a ball! It's so exciting and I'm sure that you will like it.

Meg : Wow! I can't wait to see it!

- (4) Today we are going to an aquarium, not a zoo

- (5) You can enjoy watching a dolphin show, too

配点 10点 (各 2 点)

正解 (1) ア (2) カ (3) オ (4) c (5) d

<抽出答案における【1】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体		普 通 科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
	2, 169		1, 864	187	16	51	25	26
(1) fly	50. 4	64. 5	66. 4	48. 7	43. 8	54. 9	92. 0	50. 0
(2) sick		41. 5	42. 3	35. 3	43. 8	27. 5	68. 0	30. 8
(3) open		45. 9	47. 0	36. 9	56. 3	33. 3	56. 0	34. 6
(4) aquarium		58. 2	59. 8	48. 1	56. 3	35. 3	80. 0	46. 2
(5) dolphin		41. 7	42. 8	34. 2	25. 0	29. 4	56. 0	34. 6

本年度は、小問(1)、(2)、(3)を発音に関する問題、(4)、(5)を文における強勢に関する問題とした。本問における調査校全体の抽出答案による正答率(以下、「調査校全体の正答率」という)は 50.4%であった。

平均点順位が中位にある全日制課程普通科・総合学科の生徒 100 名の答案(以下、「分析答案」という)を抽出して、小問別に誤答分析を試みた。したがって、分析答案による誤答数は調査校全体の抽出答案による誤答率とは異なる。なお、誤答分析に用いた分析答案は、設問【2】以降も同様の方法で抽出した。

<過年度類題正答率(%)>

小問	令和3年度正答率	過年度正答率(出題年度)
----	----------	--------------

(1) fly [f]	64.5	60.8 (25 年度) enough
(2) sick [i]	41.5	68.3 (24 年度) swim
(3) open [ou]	45.9	90.8 (25 年度) grow
(4) 対比される情報	58.2	28.7 (30 年度), 60.4 (29 年度), 61.0 (28 年度)
(5) 最も伝えたい情報	41.7	32.2 (2 年度), 38.3 (元年度)

<分析答案による誤答数>

小問 (発音)	誤答数	ア [f]	イ [i:]	ウ [hw]	エ [ɔ:]	オ [ou]	カ [i]	キ [ai]	ク [u:]	ケ [*]	コ [ai]	無答
(1) fly [f]	41	正答	1	19	2	3	1	2	6	7	0	0
(2) sick [i]	62	1	34	1	0	0	正答	6	0	3	17	0
(3) open [ou]	51	0	0	1	32	正答	1	0	16	0	1	0
小問 (文における強勢)	誤答数	a	b	c	d	無答						
(4) 対比される報	35	5	21	正答	9	0						
(5) 最も伝えたい情報	53	5	25	23	正答	0						

<考察>

小問(1)は、[f] の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は 64.5%と本問中最も高かった。誤答 41 例のうち 19 例が **ウ whales** であった。これは fly の [f] と whales の [hw] の発音の違いが区別されていないためと考えられる。

小問(2)は、[i] の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は 41.5%と本問中最も低かった。誤答 62 例のうち 34 例が **イ see**, 17 例が **コ exciting**, 6 例が **キ right** であり、[i] や [i:], [ai] といった母音の発音が正確に区別されていないためと考えられる。

小問(3)は、[ou] の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は 45.9%であった。誤答 51 例のうち 32 例が **エ walk** であった。これは、[ou] や [ɔ:] といった母音の発音の違いが区別されていないためと考えられる。

小問(4)は、まずゾウを見たいという Meg の発言に対し、「今日は動物園ではなく水族館に行くのだ」と Dad が答える際に、どの語に強勢を置くのかを問う問題である。調査校全体の正答率は 58.2%であった。誤答 35 例のうち 21 例が **b going** であった。これは、動物園と水族館とが対比されていて、水族館が重要な新情報であることを十分に理解できなかったためと考えられる。

小問(5)は、ペンギンを見ることを楽しみにしている Meg に、「イルカショーも見られる」と Dad が伝える際、どの語に強勢を置くのかを問う問題である。調査校全体の正答率は 41.7%と低かった。イルカショーを新たに話題にするという会話の流れを正しく理解できなかったようである。

<指導上の留意点>

<問題点>		
小問(2)に見られるように、[i] や [i:], [ai] などの母音の発音が正確に区別できていない。		
<具体的な指導例>		
(1. a) [i] や [i:], [ai] の母音の発音の違いについて説明し、教師に続いて練習させる。		
[i]	[i:]	[ai]
bit ➡ A	beat ➡ B	bite ➡ C
sit ➡ D	seat ➡ E	site ➡ F
mitt ➡ G	meet / meat ➡ H	might ➡ I

	pin ➡ J		pine ➡ K
	ship ➡ L	sheep ➡ M	
	chip ➡ N	cheap ➡ O	

(1. b) ペアで発音を聞き分け、どの音が発音されたか確認し合う活動をさせる。

【活動例】 「秘密の暗号を伝え合おう」

練習した単語を正しく発音し、ペアで伝え合う。聞き取った単語の発音を上の図のようなアルファベットに置き換え、相手が伝えたかった暗号を聞き取る。

(2) 練習した単語を用いて文を作らせる。

【例】(下線部は発音を意識して読ませたい語句)

A: Excuse me? Is this seat taken? If you don't mind, I'd like to sit side by side with you.
B: No problem.

A: Look at that! Some sheep are sleeping on the ship!
B: I wonder where they are going

(2) 語彙問題

出題のねらい：基本的な語彙力が身に付いているかを測る。

【2】 次の(1)～(5)の文中の()内に入る最も適切な語をア～エから選び、記号で答えなさい。また、(6)～(10)の文中の()内に、与えられた文字で始まる最も適切な語を一つ書きなさい。

- (1) You need to () yourself in an emergency.
ア learn イ miss ウ practice エ protect
- (2) Robots are becoming more useful than before. They can work even in () places.
ア dangerous イ original ウ simple エ strong
- (3) Where can I get () about this history museum?
ア convenience イ dictionary ウ disease エ information
- (4) A: What is the () of global warming?
B: One of the reasons is cutting trees in forests.
ア care イ cause ウ change エ check
- (5) A: We can touch snakes in this zoo. Let's try it.
B: No! I'll never do that. I'm () of them.
ア different イ late ウ scared エ sure
- (6) Today I don't have my pen, so can I (b) yours?
- (7) He was taken to the (h) because he injured his leg at home.
- (8) A: What (c) should I use to paint this character?
B: I think green is nice.
- (9) A: Tomorrow we're going to Kyoto on a school trip. I'm worried about the (w).
B: Don't worry. The newspaper says it will only be cloudy and not rain.
- (10) A: I don't want to go to any foreign countries because I can only speak Japanese.
B: When you (b) the language barrier, you will be more interested in other countries.

配点：10点(各1点)

正解 (1) エ (2) ア (3) エ (4) イ (5) ウ
(6) borrow (7) hospital (8) color (9) weather (10) break

<抽出答案における【2】小問別正答率(%)>

学科・人数	全 体	普 通 科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	2,169	1,864	187	16	51	25	26
(1) protect	64.7	66.8	48.1	50.0	45.1	92.0	57.7

(2) dangerous	57.3	81.1	83.6	63.6	68.8	56.9	100.0	69.2
(3) information		71.8	74.3	50.3	75.0	54.9	92.0	61.5
(4) cause		61.5	64.1	42.2	31.3	33.3	92.0	57.7
(5) scared		85.7	88.0	70.1	75.0	68.6	100.0	57.7
(6) borrow		44.4	47.8	16.6	18.8	17.6	80.0	34.6
(7) hospital		44.1	47.5	16.6	12.5	15.7	88.0	26.9
(8) color		47.6	50.4	26.7	31.3	27.5	72.0	26.9
(9) weather		42.9	46.8	13.4	18.8	13.7	68.0	26.9
(10) break		28.7	31.3	9.6	6.3	7.8	56.0	11.5

調査校全体の正答率は57.3%であった。

<過年度類題正答率（%）>

小問	令和3年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(7) hospital	44.1	54.6（24年度）
(9) weather	42.9	56.0（26年度）

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) protect	39	26	1	12	正答	0
(2) dangerous	13	正答	6	4	3	0
(3) information	38	3	26	8	正答	1
(4) cause	36	19	正答	13	4	0
(5) scared	6	4	1	正答	1	0

小問	誤答数	つづりの誤り（数）		その他の誤り（数）		無答
(6) borrow	56	16	brow (6), brrow (5), boroww (2) 等	35	brought (9), bring (6), buy (6) 等	5
(7) hospital	52	3	hospetal (1), hospeto (1), hospital (1)	39	home (10), health (4) 等	10
(8) color	52	32	colar (10), coler (7), coller (3), caler (2) 等	18	can (9) 等	2
(9) weather	48	27	wether (19), wather (4) 等	14	world (3), worry (2) 等	7
(10) break	74	7	brake (6), blake (1)	54	broke (6), better (5), buy (5), become (4) 等	13

<考察>

小問(1)から(5)までは文中の適語補充の選択式問題、(6)から(10)までは会話文中の適語補充問題とした。

小問(1) protect の調査校全体の正答率は64.7%であった。誤答39例のうち、26例を ア learn が占めていた。文中の emergency という語から状況を正しく理解することができなかったようである。

小問(2) dangerous の調査校全体の正答率は81.1%とよくできていた。文意から適切に解答できたと考えられる。

小問(3) information の調査校全体の正答率は71.8%とよくできていた。NEW HORIZON 2 Unit 0 で You can get a lot of information about dinosaurs and natural history at the museum.

という文を学習しており、get information という表現は定着しているようである。

小問(4) cause の調査校全体の正答率は61.5%であった。誤答36例のうち、ア care が19例、ウ change が13例であった。reasons という語から cause という語を正しく導き出すことができなかったようである。

小問(5) scared の調査校全体の正答率は85.7%と本問中最も高かった。会話の流れを適切に理解し、scared という語を選択できたと考えられる。

小問(6) borrow の調査校全体の正答率は44.4%であった。誤答56例のうち、無答が5例、「その他の誤り」が35例あった。文脈から borrow という語が思い浮かばなかったようである。

小問(7) hospital の調査校全体の正答率は44.1%であった。誤答52例のうち、無答が10例、「その他の誤り」が39例あった。because he injured his leg という表現から、hospital という語を導き出すことができなかったと考えられる。

小問(8) color の調査校全体の正答率は47.6%であった。誤答52例のうち、32例が「つづりの誤り」であった。文脈から適切な語を思い浮かべることはできたものの、正確につづることができなかったようである。

小問(9) weather の調査校全体の正答率は42.9%であった。誤答48例のうち、「つづりの誤り」が半数以上を占めていた。正しいつづりが定着していないようである。

小問(10) break の調査校全体の正答率は28.7%と今回の調査全体で最も低かった。誤答74例のうち、無答が13例、「その他の誤り」が54例あった。NEW HORIZON 2 Unit 3 で You need to break the language barrier. という文を学習しているが、直後の the language barrier という表現から break という語を導き出すことができなかったと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(10)に見られるように、場面や状況に応じて適切な表現を用いることができない。

<具体的な指導例>

英語のコロケーションを意識して取り組ませる活動

(1) 例文を提示し、空所に共通して入る動詞を考えさせる。(break の場合)

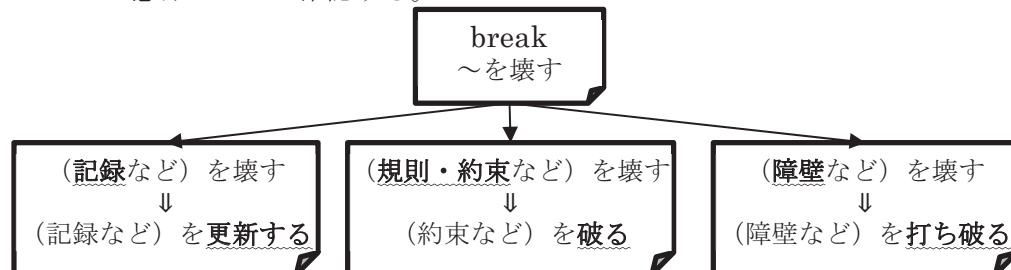
At the next Olympics, many athletes will () the records.

You shouldn't () the traffic rules when you drive.

I trust him because he never ()s his promises.

If you want to play soccer abroad in the future, you need to () the language barrier.

(2) break の意味について確認する。



(3) 他の動詞を与えて、(1)と同じように例文を考えさせる。

例) catch, grow, pay, turn など

(4) ペアで考えた例文を出し合い、空所に入る動詞を当てさせる。

(3) 文法・語法問題

出題のねらい：機能語の働きと基本的な文法事項の理解度を測る。

【3】 次の(1)～(5)がそれぞれ正しい文になるように、() 内に入る最も適当な語 (句) をア～エから選び、記号で答えなさい。

- (1) I want you () a picture of us.
 ア takes イ taking ウ to take エ took
- (2) Cacao is made () chocolate.
 ア from イ into ウ of エ with
- (3) You () happy. What happened?
 ア find イ have ウ look エ make
- (4) The Japanese festival () *bon-odori* is held in August.
 ア called イ calling ウ calls エ to call
- (5) () I studied hard last night, I didn't do well on the test today.
 ア Because イ But ウ If エ Though

配点：10 点（各 2 点）

正解 (1) ウ (2) イ (3) ウ (4) ア (5) エ

<抽出答案における【3】小問別正答率（％）>

学科・人数 小問	全 体 2,169		普 通 科 1,864	総合学科 187	商業科系 16	家庭科系 51	英語科系 25	他の学科 26
(1) to take	63.1	73.9	76.1	61.0	62.5	45.1	88.0	57.7
(2) into		47.9	49.3	38.0	37.5	37.3	56.0	38.5
(3) look		89.7	91.3	79.1	81.3	70.6	100.0	84.6
(4) called		62.5	65.3	40.1	50.0	43.1	80.0	50.0
(5) Though		41.4	43.8	21.4	25.0	29.4	72.0	23.1

調査校全体の正答率は 63.1％であった。

<過年度類題正答率（％）>

小問	令和 3 年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(4) 過去分詞の用法（後置修飾）	62.5	67.4（2 年度），85.1（元年度） 62.7（30 年度），33.2（28 年度）
(5) 接続詞 <i>though</i> の用法	41.4	47.0（2 年度），25.4（28 年度）

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) to take	35	6	21	正答	8	0
(2) into	63	45	正答	15	2	1
(3) look	7	0	2	正答	5	0
(4) called	48	正答	21	18	9	0
(5) Though	66	24	24	17	正答	1

<考察>

小問(1)は、*want* + 目的語 + *to* 不定詞の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は 73.9％とよくできていた。この用法は定着していると考えられる。

小問(2)は、*make ... into* ～ の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は 47.9％であった。誤答 63 例のうち 45 例が ア *from* に集中していた。これは、*Cacao* と *chocolate* それぞれどちらが主語かを考え、原料となるものと製品との関係を適切に考えられなかったことによるものと思われる。

小問(3)は、look + 形容詞の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は 89.7%と今回の調査全体で最も高かった。New Horizon 2 Unit 1 に基本文として扱われており、十分に定着していると考えられる。

小問(4)は、後置修飾の過去分詞 called を選択させる問題である。調査校全体の正答率は 62.5%であった。誤答 48 例のうち 21 例が イ calling であった。これは、名詞を後置修飾する現在分詞と過去分詞との区別が十分にできなかったためと思われる。また 18 例が ウ calls であり、これは文の構造を適切に判断できなかったためと考えられる。

小問(5)は、適切な接続詞 Though を選択させる問題である。調査校全体の正答率は 41.4%と本問中最も低かった。誤答は分散しており、文脈を正しく理解できず、どの接続詞が適切か判断することができなかったと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(5)に見られるように、接続詞 though の用法が十分理解できていない。

<具体的な指導例>

- (1) 生徒をグループに分け、適切な接続詞や前置詞を用いて Card A と Card B をつなぎ、文を完成させる。

Card A
he's very hard-working
he got dressed
he kept working
he thought the music was beautiful

but
and
in spite of
though

Card B
he's not very imaginative
he had breakfast
his fever
he wasn't keen on the film

- (2) Card A と Card B の内容のイラストをそれぞれスクリーンに投影する。ペアをつくり、接続詞や前置詞を補い、文を完成させて、声に出して読ませる。



he thought the music was beautiful



he wasn't keen on the film

- (3) 生徒 A に、Card A にあたる文を自由に考えさせ、前もって作成しておいた接続詞や前置詞のカードを生徒 B が引き、生徒 B にそのカードに応じて即興で後続する文を完成させる。

Student A

I am a sumo wrestler

but

Student B

I don't like "chanko nabe"

(4) 文法・表現問題

出題のねらい：基本的な文法事項の運用能力を測る。

【4】 次の(1)～(5)の会話が成立するように、()内に入る最も適当な語(句)をア～エから選び、記号で答えなさい。

- (1) A : You () take pictures in this museum.
B : I'm sorry. I'll put my camera into my bag.
ア don't have to イ have to ウ must エ must not
- (2) A : I don't like speaking English. I always make so many mistakes.
B : () afraid of making mistakes. From them, you can learn English.
ア Be イ Do ウ Don't be エ You're not
- (3) A : Yuki, your sister was not in school today. How is she doing?
B : She () sick since last Saturday.
ア has been イ is ウ was エ will be

(4) A : You should not talk too much in a short time. It's difficult to understand you. B : I see. I will try to speak (). ア faster イ more slowly ウ too fast エ too slowly
(5) A : () book is this? B : I don't know. I think someone left it here yesterday. ア How イ Where ウ Who エ Whose
配点 : 10 点 (各 2 点) 正解 (1) エ (2) ウ (3) ア (4) イ (5) エ

<抽出答案における【4】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 2,169	普 通 科 1,864	総合学科 187	商業科系 16	家庭科系 51	英語科系 25	他の学科 26
(1) must not	66.5	58.1	61.3	33.2	37.5	27.5	46.2
(2) Don't be		65.9	68.5	47.1	50.0	49.0	38.5
(3) has been		74.2	77.1	52.9	68.8	45.1	61.5
(4) more slowly		63.3	66.6	41.2	18.8	33.3	53.8
(5) Whose		71.1	72.9	57.2	62.5	52.9	61.5

調査校全体の正答率は 66.5%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	令和3年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(1) must not	58.1	79.1(29年度)
(2) 命令文の用法	65.9	93.4(28年度)
(3) 現在完了の用法(継続)	74.2	54.7(29年度)

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) must not	55	6	35	14	正答	0
(2) Don't be	45	35	1	正答	9	0
(3) has been	26	正答	5	17	4	0
(4) more slowly	39	3	正答	20	16	0
(5) Whose	28	2	22	4	正答	0

<考察>

小問(1)は、助動詞 must not を問う問題である。調査校全体の正答率は 58.1%と本問中最も低かった。誤答 55 例のうち 35 例が イ have to であり、14 例が ウ must であった。これは、A の発話の take pictures と B の発話 I'll put my camera into my bag. を関連付けて会話の流れを正しく理解することができなかつたためと考えられる。

小問(2)は、否定の命令表現 Don't be に関する問題である。調査校全体の正答率は 65.9%であった。誤答 45 例のうち 35 例が ア Be であった。be afraid of という表現はよく定着しているものの、文脈に応じて Don't be を選択することができなかつたと考えられる。

小問(3)は、現在完了の用法(継続)を問う問題である。調査校全体の正答率は 74.2%と本問中最も高かった。since last Saturday という表現から、継続を表す用法を正しく選択できたようである。

小問(4)は、比較級の表現 more slowly に関する問題である。調査校全体の正答率は 63.3%であった。誤答 39 例のうち 20 例が ウ too fast であり、16 例が エ too slowly であった。too + 副詞や

more + 副詞といった表現を適切に使い分けることができないようである。

小問(5)は、疑問詞 **Whose** を選択させる問題である。調査校全体の正答率は 71.1%であり、この表現はおおむね理解されているようである。誤答 28 例のうち 22 例が **Where** であった。これは、**B** の応答から本 の 場所に関するやり取りであると誤って理解したためと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(1)のように、助動詞の用法が定着していない。

<具体的な指導例>

具体的な場面や状況を設定し、言語活動を通してその定着を図る。

【例】非常時や防災について考える場面

(1) 英文を読ませ、適当な助動詞を選ばせる。

A: Do you know where to meet with your host family?

B: I have never talked about it with my host family.

A: In Japan, there are many disasters, so you (should / will) decide where to meet with your host family for a disaster.

B: Where is your meeting place? It (must / must not) be Asahi Center near your house.

A: Yes! We went there when a big typhoon came last year.

B: What do we (have to / must) be careful of when we go there?

A: You (don't have to / must not) bring many things there because there will not be enough space.

B: So we (must / must not) prepare for a disaster.

A: That's right. Sometimes, you (may / may not) come home for a few days.

(2) 助動詞を用いて、在留外国人向けに非常時や防災に向けてポスターを作成させる。

【例】

Instructions for an emergency and in an emergency



You must decide where to meet with your family.



You should prepare emergency food. That should be enough for a few days.



You should have an emergency bag in your house.



You must not use elevators when an earthquake happens. You must use stairs.

(5) 口語表現問題

出題のねらい：基本的な口語表現の理解度を測る。

【5】 次の英文は Ross と Rachel との会話です。(1)~(5)に入る最も適当な表現をア~コから選び、記号で答えなさい。ただし、各表現は一度しか使えません。

Ross : Are you enjoying your lunch?

Rachel : This pizza is really good! I love it very much!

Ross : (1) Actually, I don't know the area around this restaurant very well, but I was able to come anyway.

Rachel : Oh, did you come here today for the first time? (2)

Ross : My father told me about it. He often eats here when he comes to Nagoya.

Rachel : Cool!

Ross : Rachel, have you had enough?

Rachel : Yes. I'm full. (3)

Ross : Well, I don't know, but I think I'm still a little hungry.

Rachel : Then, why don't you have another piece of pizza?

Ross : (4)

Rachel : OK. If you say so, we should go to the fruit sandwich shop near Midori Station. It's very famous in Nagoya.

Ross : (5) But you said you are full! Can you eat more?

Rachel : I can always eat something sweet. Let's go.

ア Can I have another piece?

ウ How did you know about this restaurant?

オ I like pizza better than fruit sandwiches.

キ I'm glad you like it.

ケ That's a good idea.

イ How can I get to the restaurant?

エ I'd like to try something different.

カ I'll show you.

ク I'm happy to see you.

コ Would you like some more?

配点 : 10 点 (各 2 点) 正解 (1) キ (2) ウ (3) コ (4) エ (5) ケ

<抽出答案における【5】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 2,169		普 通 科 1,864	総合学科 187	商業科系 16	家庭科系 51	英語科系 25	他の学科 26
(1) I'm glad you like it.	48.9	51.4	53.8	33.7	12.5	33.3	80.0	38.5
(2) How did you know about this restaurant?		56.0	59.0	32.6	31.3	33.3	80.0	42.3
(3) Would you like some more?		44.7	47.0	26.7	12.5	25.5	68.0	42.3
(4) I'd like to try something different.		33.7	36.2	16.6	18.8	11.8	52.0	19.2
(5) That's a good idea.		58.5	60.1	46.0	62.5	33.3	84.0	50.0

調査校全体の正答率は 48.9%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答
(1) I'm glad you like it.	55	1	13	13	3	10	0	正答	13	1	1	0
(2) How did you know about this restaurant?	53	0	20	正答	9	2	10	2	5	1	1	3
(3) Would you like some more?	63	13	9	21	5	3	3	6	1	0	正答	2
(4) I'd like to try something different.	81	13	1	2	正答	37	3	5	2	13	4	1
(5) That's a good idea.	38	1	1	0	5	11	5	7	3	正答	3	2

<考察>

小問(1)は、Rachel が昼食を楽しんでいることを聞いて、Ross が安心している場面である。調査校全体の正答率は 51.4%であった。誤答 55 例中 イ How can I get to the restaurant? と ウ How did you know about this restaurant?, ク I'm happy to see you. が 13 例ずつを占めていた。直後の「実際、このレストランの辺りのエリアはあまりよく分からないけど、何とか来ることができたよ。」という発言から、Ross が安心していることを読み取れていないことが誤答の原因であると思われる。

小問(2)は、どうしてそのレストランを知っていたのかを Rachel が Ross に尋ねる場面である。調査校全体の正答率は 56.0%であり、本問中 2 番目に高かった。誤答 53 例中 20 例が イ How can I get to the restaurant? であった。これは、手段・経緯を尋ねている場面であることは理解できたが、そのレストランを知った経緯について尋ねていることを、直後の My father told me about it. から

読み取れなかったためと考えられる。

小問(3)は、Rachel が Ross に対して、もっと食べたいかを尋ねる場面である。調査校全体の正答率は 44.7%と低かった。誤答 63 例中 21 例が **ウ** How did you know about this restaurant? であった。これは、直後の Ross の発言 I think I'm still a little hungry. から正答を導くことができなかったためと考えられる。Would you like some more? という表現はあまり定着していないようである。

小問(4)は、Rachel がピザをもう一切れ食べないかと提案しているのに対して、Ross が何か別のものを食べたいと返答する場面である。調査校全体の正答率は 33.7%で、本問中最も低かった。誤答 81 例中 37 例が **オ** I like pizza better than fruit sandwiches. であった。これは、後に出てくる If you say so, we should go to the fruit sandwich shop near Midori Station. という発言から、ピザ以外のものを食べに行こうとしているという会話の流れを正しく理解できなかったためと考えられる。

小問(5)は、Rachel が有名なフルーツサンドイッチのお店へ食べに行こうと提案しているのに対して、Ross が同意する場面である。調査校全体の正答率は 58.5%であり、本問中最も高かった。最終的にフルーツサンドイッチを食べに行くことになったという流れを読み取り、Ross が Rachel の提案に同意したということを比較的容易に理解できたようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(1)や(2)、(3)に見られるように、How で始まる疑問文を理解していない。

<具体的な指導例>

(1) How で始まる疑問文とその答え方を説明する。

【例】 程度を聞く：“How much is it?” — “It is ¥2,000.”

手段を聞く：“How should I go to the city hall?” — “You should take a bus.”

状態を聞く：“How is the weather in Tokyo?” — “It's sunny.”

(2) 疑問詞 How を使う場面と疑問文、その返答を組み合わせさせる。

①



②



③



あ：How much is the dress?

い：How will the weather be tomorrow?

う：How can I get to the store?

ア：You should turn right at the corner,
and you'll find it on your left.

イ：It is ¥8,000.

ウ：It will be rainy.

(3) 以下の返答から How で始まる疑問文を作らせる。

A: There are more than 50 people in the room.

B: Ms. Suzuki comes to school by bus.

C: The lake is frozen now.

(6) 整序・作文問題

出題のねらい：単語を並べ替えて正しい英文を構成する力、基本的な英語表現能力を測る。

【6】 次の会話が成立するように、(1)～(3)は【 】内の語を全部用いて下線部の英文を完成させなさい。また、(4)、(5)は()内に3語以上の英語を入れて下線部の英文を完成させなさい。ただし、【 】内の語をこの順序で使いなさい。

(1) A: I don't want to be captain of the club. It's [for / hard / me / speak / to] in front of people.

B: Don't worry. Other members will help you.

- (2) A : I'm looking for Ms. Ono, but I can't find her. 【do / is / know / she / where / you】?
B : Yes, I do. I think she's in the music room.
- (3) A : I saw you with your teacher near the station yesterday. He's very young.
B : You're wrong, Mom. 【person / saw / the / was / you】 my classmate.
- (4) A : I'm a big fan of Dragon Ball.
B : Me, too. It () around the world. 【loved, people】
- (5) A : In Kagawa, I saw many *udon* restaurants, but not so many *soba* restaurants.
B : () *soba* there. People call Kagawa "*Udon-Ken*." 【udon, popular】

配点：15点（各3点 部分点なし）

- 正答 (1) hard for me to speak (2) Do you know where she is
(3) The person you saw was (4) is loved by people
(5) *Udon* is more popular than

<抽出答案における【6】小問別正答率（％）>

学科・人数 小問	全 体 2,169		普 通 科 1,864	総合学科 187	商業科系 16	家庭科系 51	英語科系 25	他の学科 26
(1)	51.4	70.2	73.6	46.5	50.0	35.3	92.0	61.5
(2)		53.6	57.0	31.6	12.5	13.7	84.0	46.2
(3)		30.0	33.2	5.3	0.0	3.9	68.0	7.7
(4)		50.5	53.2	29.9	37.5	23.5	84.0	38.5
(5)		52.6	55.8	27.8	25.0	23.5	92.0	34.6

小問(1)から(3)までは、会話を完成させる整序問題、小問(4)、(5)は、会話が成立するように指定された語を用いて表現させる形式とした。なお、いずれの小問にも日本語は示さないこととした。調査校全体の正答率は51.4%であった。

<過年度類題正答率（％）>

小問	令和3年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(1) 形式主語構文	70.2	68.7（2年度）It is necessary for us to prepare for disasters. 72.8（元年度）So it's necessary for us to prepare for earthquakes. 79.5（29年度）It is important for you to eat breakfast. 63.8（28年度）It is difficult for me to explain it.
(2) 間接疑問	53.6	70.6（元年度）Do you know where we can see pandas? 45.4（30年度）Do you know where Mike is from? 31.5（29年度）Do you know why he says so? 63.2（28年度）Do you know who she is?
(3) 後置修飾 （接触節）	30.0	28.0（29年度）The person you saw was my mother. 78.4（23年度）This is the book I bought yesterday.
(5) 比較級	52.6	4.3（29年度）I think Ichiro is a better player than Otani.

<分析答案による誤答数>

小問	分析答案における誤答数
(1)	25
(2)	59
(3)	86
(4)	57
(5)	50

<考察>

小問(1)は、It is ～ for 人 to 不定詞の構文を用いた表現ができるかを確かめる問題である。調査校全体の正答率は 70.2%と本問中最も高かった。

誤答例 ①	It's hard to speak for me in front of people.	10 例
②	It's speak to me for hard in front of people.	3 例
③	It's speak to hard for me in front of people.	2 例

この構文は、NEW HORIZON 3 Unit 4 で学習しており、おおむね定着しているようである。

小問(2)は、間接疑問を用いた表現ができるかを確かめる問題である。調査校全体の正答率は 53.6%であった。

誤答例 ①	Do you know where is she?	22 例
②	Where do you know she is?	17 例
③	Where do you know is she?	6 例

誤答 59 例のうち 22 例が Do you know where is she? であった。これは間接疑問の用法を正しく理解できていないためと考えられる。また、17 例が Where do you know she is? であり、直接疑問と間接疑問の使い分けが定着していないと考えられる。

小問(3)は、後置修飾（接触節）を用いた表現ができるかを確かめる問題である。調査校全体の正答率は 30.0%と本問中最も低かった。

誤答例 ①	You saw the person was my classmate.	33 例
②	You was saw the person my classmate.	21 例
③	The person was you saw my classmate.	9 例

誤答 86 例のうち、78 例は文の書き出しを You saw... や You was..., The person saw... や The person was... としており、主語を接触節で修飾することができていない。後置修飾の定着度を確認する問題の正答率は例年低く、特に主語における後置修飾（接触節）の用法は定着度が低い。

小問(4)は、受動態を用いた表現ができるかを確かめる問題である。調査校全体の正答率は 50.5%であった。

誤答例 ①	It loved by many people around the world.	8 例
②	It is loved people around the world.	5 例
③	It loved people around the world.	3 例
④	無答	9 例

誤答には大きく二つの傾向が見られた。一つ目は、be 動詞が抜けているもので、これが最も多かった。二つ目は、動作主を示す by がいないものである。誤答 57 例のうち、48 例はこれらのいずれかで解答されていることから、受動態の正しい用法が定着していないと考えられる。

小問(5)は、比較級を用いた表現ができるかを確かめる問題である。正答率は 52.6%であった。

誤答例 ①	Udon is popular than <i>soba</i> there.	5 例
②	Udon more popular than <i>soba</i> there.	3 例
③	無答	10 例

誤答 50 例のうち、半数にあたる 25 例は more popular の形を解答できていない。また、文として成立していない解答が多く、比較表現はあまり定着していないようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(3)のように、後置修飾（接触節）を用いた表現が定着していない。

<具体的な指導例>

3-hint quiz を活用した例

(1)

- ・ Card A を配付する。
- ・ テーマ（食べ物や人物など）を与え、名詞を1語考えさせる。
- ・ その単語についてヒントとなる英文を接触節を用いて書かせる。
- ・ It is テーマ + S V という定型文を与える。

Card A の例

- ① It is a food I like best.
- ② It is a food everyone likes to eat in summer.
- ③ It is a food you can enjoy with many kinds of flavors.

(2)

- ・ ペアになり、片方の生徒に Card A の三つの英文を一つずつ読み上げさせる。
- ・ 読み終えたところで、もう一方の生徒に答えを当てさせる。
- ・ ペアの役割を交代させて、同様に活動を行わせる。

(3)

- ・ Card A をペア同士で交換させる。
- ・ Card B を配付する。
- ・ Card A でパートナーが書いた英文の It is 以降の部分の主語にして、自分で考えた英文に書き換えさせる。

具体例

Card A の①には、It is a food I like best. と書かれているので、
Card B の①には、A food I like best ... で始めた文を書かせる

Theme: <u>Food</u>	Card A
① It is a food I like best.	
② It is a food <u>everyone likes to eat in summer</u> .	
③ It is a food <u>ここを自分で考えて書く</u> .	
氏名	

Theme: <u>Food</u>	Card B
① A food I like best <u>is rice balls</u> .	
② A food (Card A で書かれている内容) is <u>自分で考える</u> .	
③ A food . . .	
氏名	

(7) 長文読解問題

出題のねらい：比較的長い英文を読み取る力を測る。

【7】 次の英文を読んで、あとの問いに答えなさい。

On Saturday, Mr. Franklin was sitting in his favorite restaurant. He finished lunch and was drinking some coffee. After a while he gave money for the food, but (1) he didn't leave a tip. When Mr. Franklin was leaving, Ricardo, a worker of the restaurant, stopped him and asked, "You didn't give me a tip today. Why?"

"Sorry," Mr. Franklin replied. "I don't have enough money today. But instead of money, I can give you (2) a gift — Mary, my dog."

"Really? But I can't take her from you! (3-a) She's like a member of your family," said Ricardo.

"Listen carefully," said Mr. Franklin. "I have a plan, and my wife will give you a tip."

(4) Ricardo was surprised and said, "Your wife? What do you mean?"

"She loves Mary the most, and she will be very worried when (3-b) she finds that she's not at home. If you agree, I'll bring Mary here tomorrow morning. Just leave her alone in your house for a few hours."

(5) Yes, but...."

問6 下線部(6)の理由として、最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア Because her husband sold Mary to Ricardo when she was out.
 イ Because she couldn't find Mary.
 ウ Because she had to give one hundred dollars to Ricardo.
 エ Because the food at the restaurant was not so good.

問7 **Mary** の特徴を本文から読み取り、最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。



問8 英文の内容について、以下の対話文の【 】に入る表現として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

Teacher : How do you feel about this story?

Student A : I like it. Mr. Franklin had a plan to give Ricardo money from Mrs. Franklin. But at the end of the story, the plan didn't work.

Student B : I see. The story tells us that 【 】.

- ア we should follow other people's advice
 イ we should look after our own pets
 ウ we should not think about money before we have it
 エ we should not waste our money

問9 本文の内容と一致するものを下から二つ選び、その記号を答えなさい。

- ア Mr. Franklin didn't give money for his lunch.
 イ Ricardo was very happy to get Mary.
 ウ Mr. Franklin visited the restaurant three times in these two days.
 エ Mr. Franklin asked his wife to give one hundred dollars to Ricardo.
 オ Ricardo actually found Mary in his garden.
 カ Mary broke Mr. Franklin's clock.
 キ Ricardo had only two dollars to share with Mr. Franklin.

配点：20点（各2点）

正解 問1 イ 問2 エ 問3 エ 問4 ア 問5 ア
 問6 イ 問7 エ 問8 ウ 問9 ウ, キ

<抽出答案における【7】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問		全 体 2,169	普 通 科 1,864	総合学科 187	商業科系 16	家庭科系 51	英語科系 25	他の学科 26	
問 1		55.2	82.7	83.7	75.4	75.0	64.7	96.0	88.5
問 2			72.8	75.2	52.4	62.5	62.7	88.0	61.5
問 3			58.2	59.6	47.1	25.0	47.1	84.0	53.8
問 4			62.7	65.2	44.4	37.5	39.2	76.0	57.7
問 5			54.2	56.3	34.8	43.8	51.0	76.0	34.6
問 6			51.3	53.8	28.3	37.5	33.3	92.0	38.5
問 7			65.8	68.6	46.0	31.3	43.1	84.0	53.8
問 8			38.9	39.5	29.9	56.3	37.3	52.0	38.5
問 9	ウ		33.8	35.7	18.2	25.0	27.5	40.0	23.1
	キ	31.5	33.1	20.3	25.0	13.7	52.0	15.4	

調査校全体の正答率は55.2%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	無答
問 1	13	2	正答	3	8				0
問 2	29	2	22	5	正答				0
問 3	46	16	6	24	正答				0
問 4	43	正答	14	19	10				0
問 5	57	正答	28	13	13				3
問 6	51	22	正答	16	9				4
問 7	31	13	9	6	正答				3
問 8	59	17	23	正答	12				7
問 9	155	18	25	正答	31	28	35	正答	18

<考察>

問 1 は、Mr. Franklin がチップを支払わなかった理由を問う問題である。調査校全体の正答率は 82.7%と本問中最も高かった。店員である Ricardo に理由を聞かれた Mr. Franklin が “I don’t have enough money.” と答えた場面から容易に理解できたようである。

問 2 は、Mr. Franklin がチップとしてお金の代わりに与えるという a gift が指すものは何かを問う問題である。調査校全体の正答率は 72.8%とよくできていた。直後の Mary, my dog から Mr. Franklin の飼い犬であることを正しく理解できたようである。

問 3 は、代名詞 (3-a) She と (3-b) she が指す内容を問う問題である。調査校全体の正答率は 58.2%であった。誤答 46 例のうち、ウ (3-a) Mary (3-b) Mary が 24 例を占めた。(3-a) の She が Mary であることは容易に分かったようだが、(3-b) の she が Mrs. Franklin であることは読み取れなかったようである。

問 4 は、Ricardo が驚いている理由を問う問題である。調査校全体の正答率は 62.7%であった。誤答は分散しており、直前の Mr. Franklin の発言 “I have a plan, and my wife will give you a tip.” から、Mrs. Franklin がチップを支払うことになるという場面であることを正確に捉えられなかったようである。

問 5 は、Ricardo が “Yes, but” と答える場面で、何に同意したかを問う問題である。調査校全体の正答率は 54.2%であった。誤答 57 例のうち、イ Ricardo will visit Mr. Franklin’s house and take Mary to his house. が 28 例であった。直前の Mr. Franklin の発言 “I’ll bring Mary here tomorrow morning. Just leave her alone in your house for a few hours.” から、Mr. Franklin が Mary を連れてきて Ricardo に預けようとしていることが正しく読み取れなかったようである。

問 6 は、Mrs. Franklin が悲しそうに見えた理由を問う問題である。調査校全体の正答率は 51.3%であった。誤答 51 例のうち、ア Because her husband sold Mary to Ricardo when she was out. が 22 例、ウ Because she had to give one hundred dollars to Ricardo. が 16 例であった。Mr. Franklin の計画を正しく読み取ることができず、Mary がいなくなったことについて Mrs. Franklin が悲しんでいるという状況を理解できなかったようである。

問 7 は、Mary の特徴を問う問題である。調査校全体の正答率は 65.8%であった。Ricardo と Mrs. Franklin とのやり取りから Mary の特徴を理解することは比較的容易だったようである。

問 8 は、この物語文を読んだ Teacher と Student A, Student B による会話文を読み、この物語

から得られる教訓として適切な内容を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は 38.9%と低く、誤答は分散していた。物語の結末部分で Mr. Franklin が計画通りにお金を手に入れられなかったことからこの物語の全体像を読み取り、正答を導くことができなかったようである。

問 9 は、本文の内容に一致するものを二つ選択する問題である。調査校全体の正答率は、ウ が 33.8%と低く、キ は 31.5%と本問中最も低かった。誤答は分散しており、無答も多かった。場面の状況や登場人物の行動などを整理しながら、物語の展開を正確に捉えることが難しかったようである。

＜指導上の留意点＞

＜問題点＞

問 9 に見られるように、場面の状況や登場人物の行動などを整理しながら、物語の展開を正確に捉えられない。

＜具体的な指導例＞

(1) 英文を読ませた後で、①文中に書かれている情報を確認する質問と、②文中に書かれていない情報等について推測や想像をさせる質問を用意し、ペアで回答を考えさせる。

書かれていない情報についても推測や想像をさせる活動を通して、場面の状況や登場人物の心情をより鮮明に思い描かせ、与えられた英文の理解を更に深めさせる。

① 文中に書かれている情報を確認する Q & A の例

Q : Did Mr. Franklin leave a tip? A : No, he didn't.

Q : According to Mr. Franklin's plan, what would Ricardo do on Sunday morning?

A : He would come to his restaurant to meet Mr. Franklin with Mary, and take Mary to his house.

Q : Where did Mary break a clock? A : In Ricardo's house.

② 文中に書かれていない情報等について推測や想像をさせる Q & A の例

Q : Do you think that Ricardo has talked to Mr. Franklin before?

A : Yes, because Mr. Franklin often comes to this restaurant and Ricardo knows that Mr. Franklin loves Mary so much.

Q : Why did Mr. Franklin say he would give Mary to Ricardo?

A : Because he thought of getting money from his wife.

Q : Why was Mrs. Franklin sad when she visited the restaurant?

A : Because she thought Mary had gone somewhere.

Q : What do you think Ricardo said when Mrs. Franklin asked him about the dog's tail?

A : He must have said "It has a long tail," because after he replied Mrs. Franklin was sure that it was Mary.

Q : Do you think Mary really broke the clock in Ricardo's house?

A : Yes I do. / I don't think so. Maybe he told a lie to get all the money he got.

(2) ペアを作り、一人をインタビュー役、もう一人を物語中の登場人物役として、物語の内容に即したインタビューをさせる。

生徒 A : Hello, Mr. Franklin. When you visited the restaurant on Saturday, did you leave a tip?

生徒 B : No, I didn't. I didn't have enough money then.

生徒 A : I see. But I hear that you told Ricardo that you would give your dog to him. Why did you say such a thing?

生徒 B : Well, I didn't mean it, of course. I just wanted to surprise my wife and... I wanted to get a little money for my own.

(8) 聞き取り問題

出題のねらい：英語の聞き取りによる理解度を測る。

〔第1問〕

第1問は、1番から3番までの三つあります。それぞれについて、最初に会話文が読まれ、続いて、会話についての問いと、問いに対する答え、(a), (b), (c), (d)が読まれます。そのあと、もう一度、その会話文、問い、問いに対する答えが読まれます。正しいものには○、そうでないものには×をつけなさい。正しい答えは、それぞれ一つしかありません。それでは、始めます。

- (1) A: Excuse me. Which bus goes to Nagoya Station?
B: This bus does.
A: How long does it take?
Question: What will the man say next?
(a) At Nagoya Station. (b) Every five minutes.
(c) About 30 minutes. (d) Take Bus No. 20.
- (2) A: I like the design of this T-shirt.
B: It's a very popular one.
A: But it's too expensive.
Question: What will the man say next?
(a) How about that cheaper one? (b) I have enough money.
(c) I like this T-shirt, too. (d) Sorry, we don't have jackets now.
- (3) A: Have you been to Hokkaido?
B: No, I haven't. But I want to visit there someday.
A: I'm going there with my friends. Would you like to come with us?
Question: What will the man say next?
(a) Here you are. (b) I'd love to.
(c) I don't go to Hokkaido. (d) That's right.

[第2問]

第2問は、最初に駅員の男性と女性客との会話文が読めます。続いて、会話についての問いと、問いに対する答え、(a)、(b)、(c)、(d)が読めます。問いは二つあります。そのあと、もう一度、会話文、問い、問いに対する答えが読めます。正しいものには○、そうでないものには×をつけなさい。正しい答えは、それぞれ一つしかありません。それでは、始めます。

Man: May I help you?

Woman: Yes. This is my ticket for the 3:30 train to Osaka. I want to leave sooner, so can I change tickets?

Man: OK. The next train for Osaka leaves at 12 o'clock.

Woman: So, I have twenty minutes before the train leaves.

Man: Will that be all right?

Woman: Yes, but I want to get my lunch before I catch the train. Where can I buy it?

Man: Look, the shop is there.

Woman: Oh, that's perfect.

Man: This is a new ticket for you. Here you are. Your train leaves from Track 9.

Woman: Thank you. Bye.

Question 1: What time is it now?

(a) 9 o'clock (b) 11:40 (c) 12 o'clock (d) 3:30

Question 2: What is the woman going to do next?

(a) She is going to ask the man about a ticket. (b) She is going to buy a new ticket.
(c) She is going to change trains. (d) She is going to get lunch.

配点 15点 (各3点)

正答 第1問 1 a (×) b (×) c (×) d (○) 2 a (○) b (×) c (×) d (×)
3 a (×) b (○) c (×) d (×)
第2問 1 a (×) b (○) c (×) d (×) 2 a (×) b (×) c (×) d (○)

<抽出答案における【8】小問別正答率(%)>

学科・人数	全 体	普 通 科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	2,169	1,864	187	16	51	25	26
第1問 Question 1	79.1	81.2	62.6	68.8	60.8	96.0	73.1
Question 2	57.1	59.3	39.6	37.5	37.3	92.0	42.3
Question 3	68.1	70.8	48.1	31.3	52.9	88.0	57.7
第2問 Question 1	57.5	59.7	38.5	25.0	37.3	96.0	57.7
Question 2	64.1	66.6	43.3	37.5	47.1	96.0	57.7

昨年度までと同様に、本年度は、20語程度の短い会話文を聞き、それに対する Question (1問) に答える形式の3題と、100語程度のまとまった会話文を聞き、それに対する Questions (2問) に答える形式の1題を出題した。

第1問は、二人の会話が次にどのように続くかを推測させるものである。第2問は、客と駅員によ

る乗車券の変更についての会話である。第1問、第2問ともに、問題を、「会話文→質問→解答選択肢」の順で2度繰り返して提示した。読みの速さは、例年同様、話し言葉の自然な速さとし、解答は、全ての選択肢に○または×を付けさせる形式とした。本問の調査校全体の正答率は65.2%であった。

<分析答案による誤答数>

小問		誤答数	(a)	(b)	(c)	(d)	無答
第1問	Question 1	30	2	10	正答	18	0
	Question 2	56	正答	37	14	5	0
	Question 3	39	1	正答	11	27	0
第2問	Question 1	64	14	正答	33	17	0
	Question 2	37	5	12	20	正答	0

<考察>

第1問 Question 1 は、男性が「名古屋駅までバスでどれくらい時間がかかるか」という質問にどう答えるかを問うものである。調査校全体の正答率は79.1%と本問中最も高かった。How long ...? という表現を正しく理解することができたようである。

Question 2 は、男性が「このTシャツは高すぎる」という発言にどう答えるかを問うものである。調査校全体の正答率は57.1%と本問中最も低かった。女性の発言を受けて、安価なTシャツを勧める選択肢と結びつけることは難しかったようである。

Question 3 は、男性が「一緒に北海道に行きませんか」という発言にどう答えるかを問うものである。調査校全体の正答率は68.1%であった。Would you like ...? に対する応答として、I'd love to. という表現はおおむね定着しているようである。

第2問 Question 1 は、「二人が会話をしている時刻」を問うものである。調査校全体の正答率は57.5%であった。問われている時刻そのものは話されておらず、二人の“The next train for Osaka leaves at 12 o'clock.” “So, I have twenty minutes before the train leaves.” という会話から判断することは難しかったようである。

Question 2 は、「女性はこの後どうするか」を問うものである。調査校全体の正答率は64.1%であった。会話には、乗車券の変更と昼食をどこで買うとよいかという話題が含まれており、与えられた情報を整理して判断することができたと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

会話の内容や状況をイメージして聞くことが難しい。

<具体的な指導例>

- (1) 会話文を複数回聞かせ、必要に応じてメモをとらせる。
- (2) 会話の内容や登場人物の状況について、英問英答で確認させる。

【会話文の例】本問第1問(2)

Woman: I like the design of this T-shirt.

Man: It's a very popular one.

Woman: But it's too expensive.

【発問の例】

Teacher: Where are they?

Student: I think they are in a clothing shop.

Teacher: What is the woman doing?

Student: She's looking for a T-shirt.

Teacher: Do you think that she will buy the T-shirt? Why?

Student: No. She won't buy it because it's too expensive.